

質問者 北嶋議員

答弁者

村 長

住民課

### 鹿による農作物への被害について

これまで、鹿による農作物の被害については、予算審査、決算審査、一般質問等において、十数年言い続けてきました。

中札内村の基幹産業である「農業」に対する鹿による被害は、過去は栄地区への被害が主でしたが、近年は南札内や他の地域にも拡大し、農業被害は拡大し続けています。また、これからも、鹿、熊、アライグマなどの被害は拡大し続けていくと思われています。

鹿などの農業被害による農業経営に与える影響が深刻化する中、肥料価格、燃料価格等高騰の影響により農業経営は更に厳しいものになってきています。

村はこれまで、多面的機能支払対策による「電牧柵の設置」に対する支援、「狩猟免許取得費用助成」、「くくり罠による捕獲」、「くまドン設置」などの対策を講じ、令和5年度には「鹿ソニック設置」による実証を行うとされています。

このような状況にある中、次の点についてお伺いいたします。

- ①過去5年間の鹿などによる農作物被害はどれぐらいであったのか。
- ②鹿ソニック設置のほかに、検討している対策があるのか。
- ③鹿以外の有害鳥獣に対して、検討している対策があるのか。

鹿による農作物被害について、ご質問の1点目ですが、北海道に報告した平成29年度から令和3年度の過去5年間に於ける中札内村の野生鳥獣による農作物被害のうち、鹿による被害額については、平成29年度で1,810万円、平成30年度2,460万円、令和元年度2,200万円、令和2年度2,020万円、令和3年度1,930万円となっております。なお、全体の被害額総計は、平成29年度1,900万円、平成30年度2,590万円、令和元年度2,300万円、令和2年度2,100万円、令和3年度1,990万円となっており、ほとんどが鹿による被害となっております。

2点目、鹿ソニック設置以外の対策ですが、シカについ

ては、鳥獣被害防止計画に基づき、駆除による個体数減を対策の柱と考えて、猟友会と連携して駆除を進めているところです。これにより例年200頭前後のシカの捕獲・駆除を行い、個体数が増加しないよう捕獲圧をかけております。

ただし、駆除は基本的にくくり罠や銃器によるものですので、市街地や民家および道路に近い場所では実施することができないため、平野部においては直接的な対策とはなりません。そのため、主な生息地である山間部で駆除を行い、個体数を減少させることで被害総体を減少させるとともに、駆除の及ばない平野部においては、鹿ソニックや電気柵、爆竹などを使って追い払いを行い、山間部に追い返す対策を主体としているところです。同様の理由から、シカが平野部に降りてくる際の走行ルートとなる防風林帯を適正に管理することも有効と考え、例年下刈りを実施しております。また、栄地区を中心に見られるシカの集団営巣は、その生態から考えても特殊な例であることから、帯広畜産大学との共同研究の場を設け、その中で地域の課題として対策を研究できないか打診したいと考えております。

3点目、鹿以外の有害鳥獣対策についてですが、鳥獣被害防止計画においては、キツネ・アライグマ・ヒグマおよび鳥類を対象とし、それぞれ箱罠および銃器による駆除を実施するほか、クマに対しては「くまドン」による追い払いの実証実験や、キツネについてはエキノコックス駆虫薬散布により人やペットへの感染被害を減少させるなど、他の地域に先んじた対策を講じております。アライグマについても、過去に「アライグマ対策講習会」を開催し、アライグマを捕獲する箱罠の設置従事者の拡大に努めるなど、頭数の増加傾向に向けた対策を講じているところです。また、鳥類被害については、鹿ソニックやくまドンを開発し

ている業者から情報提供を受け、猛禽類の鳴き声を発して追い払いを行う対鳥類音響設備を用いることでカラス等の被害を防げるのではないかと考え、今後の活用を検討しております。いずれの対策もシカ同様、駆除による有害個体の減少を基本とし、捕獲以外の副次的な対策として、さまざまな可能性を検証していく考えです。